

「主体的に学ぶ力」の育成に向けた 生徒の主体的・対話的で深い学びの充実

指導主事 岩崎 敬志

研究協力員 熊本県立南関高等学校 教諭 宮本 昌嗣

研究協力員 熊本県立高森高等学校 教諭 大城戸 靖雄

1 研修主題について

熊本県立南関高等学校は、「輝け！南高伝説～誇りを胸に～」を教育目標に掲げ、具体的重点項目が5項目にまとめられている。その第1目標が授業等の更なる改善と充実（「生徒が主体的に学び、他者との学びを深め合う授業の創造」）である。

熊本県立高森高等学校は、「一人一人が輝く学校」をスローガンに4つの教育目標を据えている。中でも「学力の向上と進路指導の充実」において、わかる授業のための授業改善に取り組むことで、基礎学力の定着を図るとともに、自ら学び考える力の育成と豊かな創造性を育て、自己実現に取り組むことを目指している。

これらのことから、本研究における「これからの社会に求められる資質・能力」を「主体的に学ぶ力」と設定し、育成を目指した。その具体的な姿を、「自ら進んで取り組む姿」「自分で判断し行動を決める姿」「自分の考えを伝える姿」とし、この三つ側面から検証を図ることとした。

2 研究の視点

高等学校保健体育科では、生徒の「これからの社会に求められる資質・能力」として設定した「主体的に学ぶ力」の育成に向け、主体的・対話的で深い学びを充実させることに取り組んだ。

「主体的に学ぶ力」の育成を目指した主体的・対話的で深い学びを充実させるための取組について、以下の3つの視点から述べることとする。

(1) 視点1「学びを引き出す」について

生徒が実際に住んでいる地域の実態から考えられる体力の課題を探求し、高校生である自分たちにどんな貢献ができるのかを問うことで主体的な学びを引き出すことを目指した。また、実際に居住している身近な地域の課題を取り扱うことで当事者意識が生まれ、魅力ある学習内容となることを期待した。

さらに、生涯にわたり継続しやすいエクササイズプログラム（高森高校）・オリジナル運動（南関高校）を立てるというミッションを設定することで、体力の程度に応じた適切な運動の種類・強度・量・頻度を選び、協働的な解決に向かう学習になるようにした。

(2) 視点2「学びを振り返る」について

思考過程の可視化を図るためのワークシートを作成して、具体的にどのような声かけや動きでアドバイスを受けたかを表記するようにした。また、ワークシートには、対象となる方々に応じた課題を設定し、オリジナルのエクササイズプログラムを協働しながら作成することができたかどうかという観点で思考判断を評価し、「学びを表現する力」を意識できるようにした。

(3) 視点3「学びを支える」について

運動プログラムをグループ内で検討・作成する際にビデオやタブレットPC等を活用し、一つ一つの動きを振り返る際に、適切な運動の仕方や効果をじっくりと視覚で観察できるようにした。

クラス内の発表会を実施する際に、相互に課題を出し合い、アドバイスや改善ポイントを指摘し、交流を深めることで、課題解決へとつなげるようにした。

3 研究の実際

検証1 熊本県立南関高等学校 第3学年 15名
単元名 「体づくり運動」

(1) 本単元の授業設計

① 児童生徒の実態

生徒たちは、楽しくゲームを自由に行う体育の授業を好む傾向にあるが、運動技能も高くはなく試合等が長続きしない。体力に関しても非常に低く、熊本県の新体力テストでは長座体前屈のみが県の標準

以上で他の種目は標準以下である。また、グループで課題を解決するために話し合うことや自分の意見を積極的に発表することも苦手である。

② 単元について

単元「体づくり運動」の「体力を高める運動」は、体力の向上をねらいとしており、自己の体力や日常生活に応じて目的にあった運動を構成し、それを活用する運動である。したがって、自己の体力や生活に応じて、どのような運動を、どのように実施すればよいかを工夫し、さらに計画を立てて実施できる能力を育成することが求められる。

そこで、本単元では地域に広まっている運動を南高生が習得し、高齢者にあった新しい運動プログラム提供しようという問いをたて、仲間やゲストティーチャーと交流しコミュニケーション力を高め、自分の実践等を自分の言葉や文章で伝えられるようになることを目指した。また、仲間の運動を観察し自分の弱点等に気づき改善できるようになるために、グループで自己の弱点を具体的に伝え、お互いの課題等話し合い、新たな解決法を探るようにした。

(2) 指導の実際

① 単元計画について

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
0	健康観察・準備運動・補強運動										
	「A-life なんかん」運動の実践										
10	地域の 体力的 課題を 調査	運動 効果の 専門知 識習得	高齢者に提供するオリジナル運動について						撮影 映像の 編集	オリジナル 運動の 冊子 作成	
20			計画→制作→再検討								
30					中間発表		発表				
40											
50	振り返り・まとめ・整理運動・片付け										

② 本時の学習（展開）計画

導入

- ①集合・挨拶・点呼
- ②ウォーミングアップをする（ランニング・体操・腕立・腹筋・背筋・ジャンプ）
- ③本時の学習内容の説明

展開

- ④「A-life なんかん」独自の運動を全員で実践する。
- ⑤実践した独自の運動を映像で確認する。
- ⑥代表者が中心となり練り直したオリジナル運動を実践して他の班に発表する。
- ⑦撮影した映像を振り返りながら、効果的な部分や課題となる動きについて意見を出し合う。

まとめ

- ⑥学習のまとめ
 - (1)班ごとに話し合い授業を振り返る。
 - ・各人の課題への成果
 - (2)学習カードへ記入する。
 - ・努力した部分や本時の成果について記録する。

③ 主体的・対話的学びが展開された場面

本時の学習課題

- 1 「A-life なんかん」の運動を実践する。
- 2 仲間からのアドバイスや課題点を踏まえオリジナル運動を改善し発表する。

学びを引き出す

高齢者の体力の現状を踏まえた運動となっているかについて、仲間からの声かけやアドバイスを学習シートに記録する。



学びを振り返る

高齢者の特性を踏まえたオリジナル運動となっているか仲間からのアドバイスをもとに、グループで話し合い改善しながら振り返る。



学びを支える

タブレットPCなどを活用し、生徒たちが視覚的に改善点を捉えやすいようにする。



(3) 検証結果と考察

今回、保健体育科の授業における学習活動を通して「主体的に学ぶ力」を育むことを目的とした。本研究では、「主体的に学ぶ力」について、「子どもの主体性尺度 (20 項目の質問)」を用いたアンケートを実施し、「積極的な自発的行動」「自己決定力」「自己表現」の三つの姿で検証した。

20 項目の質問とその結果は、次のとおりである。

表 1 主体性に関する質問紙調査 (南関高校) n=13

「積極的な自発的行動」	事前	事後	差
①やることを人に言われなくても時間や場所等を考えて自分から進んでしますか。	3.23	3.31	↑
②結果を気にせず、とにかく取り組むことができますか。	3.15	3.31	↑
③つまづいた時、自分なりの考えで乗り越えようとしていますか。	2.85	3.31	↑
④自分一人でもやってみようという気持ちが強く、失敗をおそれずやることができますか。	2.85	3.00	↑
⑤あなたは、熱中しているもの(趣味, スポーツ, 音楽など)を持っていますか。	3.69	3.31	↓
⑥色々なことについて、おもしろい、やってみたいという気持ちがありますか。	3.46	3.38	↓
⑦新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか。	3.15	3.46	↑
⑧分からないことはすぐに自分で調べようとしていますか。	3.00	3.38	↑
⑨正しいと思ったことは、時間をかけてもやり抜きますか。	2.92	3.46	↑

「自己決定力」	事前	事後	差
⑩自分の考え出したよい意見でも、みんなに反対されると、理由をよく調べないで、すぐに取り消してしまいますか。	2.31	2.62	↑
⑪やろうと思うことも、人からだめだとけなされると、すぐ自信がなくなってしまうですか。	2.23	2.31	↑
⑫自分一人でやることでも自分だけでは不安なので、友だちと一緒にすることが多いですか。	2.62	2.38	↓
⑬よく考えもしないで、友だちの言葉を、すぐ信じてしまうことが多い方ですか。	2.23	2.38	↑
⑭大きな目標を持ち、それができるようにこつこつ取り組みますか。	3.08	3.23	↑
⑮自分がしていることが、よいか、悪いかが分かりますか。	3.54	3.77	↑
⑯時々一人になって、自分の進む道を、よく考えてみますか。	3.15	3.54	↑

「自己表現力」	事前	事後	差
⑰自分の考えを言うことができますか。(発表だけでなく、文や絵や身体表現でも)	2.77	3.08	↑
⑱自分の言葉で自分の考えを言えますか。	3.08	3.15	↑
⑲今までやってきたことをもとにして、遊びの中などで自分の考え方や工夫を出すことができますか。	2.85	3.15	↑
⑳自分の考えを持って、進んで自分から言いますか。	2.77	3.15	↑

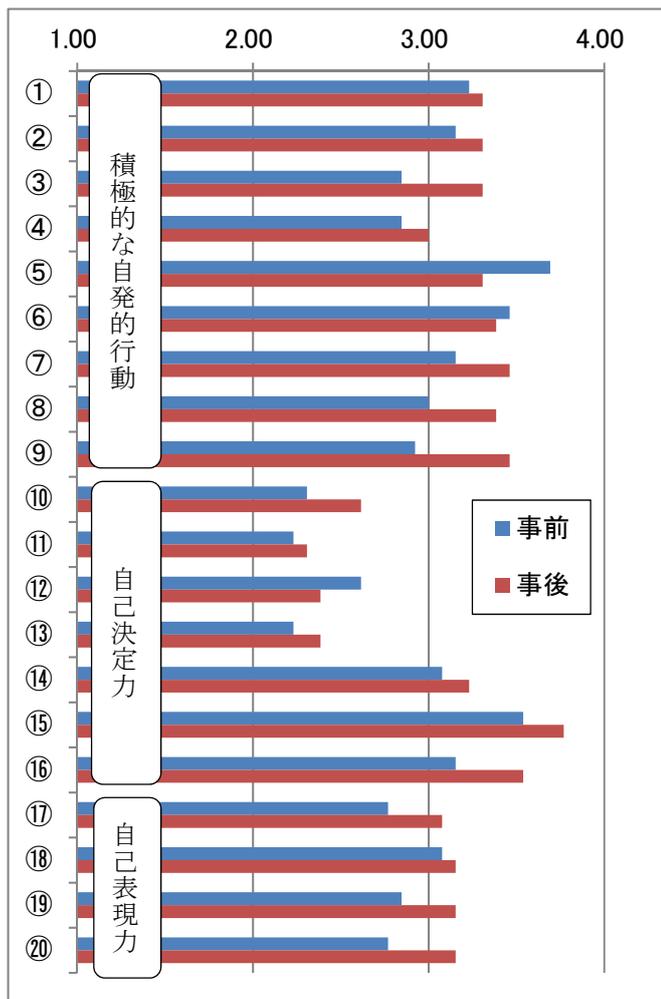


図1 主体性に関する質問紙調査 (南関高校) n=13

質問 20 項目のうち 17 の項目で数値が上がった。(図1) 特に、「⑨正しいと思ったことは、時間をかけてもやり抜きますか」・「③つまづいた時、自分なりの考えで乗り越えようとしていますか」・「⑧分からないことはすぐに自分で調べようとしていますか」の3つの質問項目では、数値が大きく向上した。本授業で展開された仲間からのアドバイスをもとにグループで協働しながら対話的に活動したりする場面の設定が生徒の好奇心や積極性を高めたものと考えられる。さらにNPO法人「A-life なんかん」からの専門的な意見やオリジナル運動を改善する中でICT機器を十分に活用できたことが主体的な学びにつながったものと考えられる。

また、次のグラフ(図2)は、20項目の質問を「積極的な自発的行動」「自己決定力」「自己表現」の三つの姿を検証した結果である。

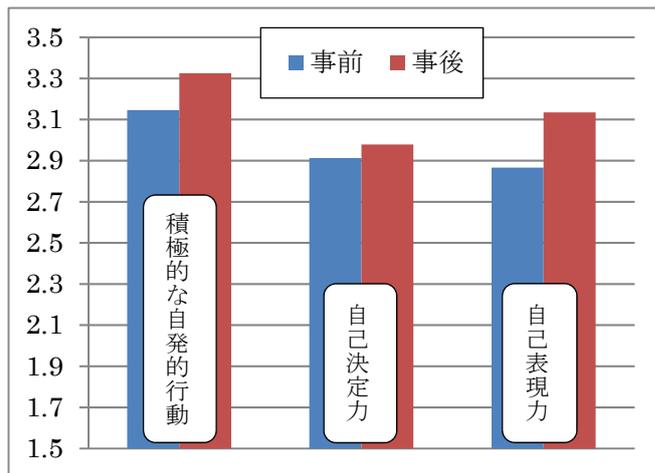


図2 主体性に関する質問紙調査 (南関高校) n=13

「積極的な自発的行動」については、事前調査で数値が最も高かったが、さらに伸びている。今回の授業で実践された、高齢者の身体的特性を考慮したオリジナル運動を作成しようという今までにない生徒への問いが、積極的な行動に結びついたものと考えられる。

「自己決定力」については、僅かに数値が向上したものの大きな変化はなかった。生徒の実態からリーダー的素質を持った生徒が少ないことと、自分の考えは進んで言っても、あまり自信が持てず人から否定されると意見を取り下げってしまう傾向もあるように思われた。

「自己表現力」については、最も数値が伸びた部分である。今までの授業では、教師主導型であり生徒は受け身の姿勢だった。今回は、高齢者の立場に立ったオリジナル運動を作成するというミッションをうけて、グループ内での豊富な対話や体を動かしての表現がなされた結果であると考えられる。

検証2 高森高等学校第2学年 22名
単元名 体づくり運動 「体力を高める運動」

(1) 本単元の授業設計

①児童生徒の実態から

本校生は地域で学び、地域で育てられ、地域に恩返しをしたいと考える生徒が多い。また素直に行動する生徒やひたむきな姿勢で汗をかきながら授業に取り組む生徒がほとんどである。

体育の授業においても、知識を習得することや与えられた課題に黙々と取り組む姿は見られるが、個人やグループで「学びを深めたり」「学びを掘り下げる」ことに関しては苦手としている生徒もいる。また主体的な活動を目指しているが、苦手としている生徒が多く、話し合い活動や教え合い活動などで思考・協働することもあまり得意でない生徒がいる。

これらのことから、本単元においては、継続しやすい「体力を高める運動」の計画を立て、体力の程度に応じて、適切な運動の種類・強度・量・頻度を選ぶことは、「主体的に学ぶ力」という資質・能力の獲得にもつながり、本校の学校教育目標の「一人一人が輝く学校」及び目指す生徒像の「知＝学び 仁＝やさしさ 勇＝強さ」の実現につながるものであると捉えた。

②単元について

単元「体づくり運動」の「体力を高める運動」は、体力の向上をねらいとしており、自己の体力や日常生活に応じて目的にあった運動を構成し、それを活用する運動である。したがって、自己の体力や生活に応じて、どのような運動を、どのように実施すればよいかを工夫し、さらに計画を立てて実施できる能力を育成することが求められる。

そこで、本単元では単元を貫く「問い」を「地域の体力向上のために、対象に応じたオリジナルエクササイズを提供しよう」とした。ステップ1として、体育理論とも関連させ「運動の効果」や「各年代別の体力の課題」などを基礎的知識として学ぶ。ステップ2で地域の各年代の方々に「エクササイズ」を紹介するという授業を展開したいと考えている。ねらいは、地域の「体力向上の一助」となることである。グループ活動を中心に行い、互いの考えを尊重し、意見を交わし、教え合い、創造しながらオリジナルのエクササイズを作り上げていく活動である。この過程で、思考力を発揮し、仲間とひとつのことを作り上げるという協働的な活動に力を入れていきたい。

さらには、ステップ3として、作成したオリジナルエクササイズを映像として完成させたいと考えている。授業でICTを活用しながら「学びを振り返る活動」やグループで「協働する活動」へと結びつけたい。完成した映像を地域のテレビ（高森ポイン

トチャンネル）で放送していただくことで、生徒の意欲を高めるとともに、社会に開かれた教育課程の実践もねらっている。また、地域住民の視聴の状況やエクササイズの実施状況、運動の効果などについても生徒の保護者を中心に「アンケート調査」で検証しようと考えている。

生徒が地域の体力の実態を知識として学んだもの（インプット）を地域の方々へエクササイズプログラムとして提供するという活動（アウトプット）を通して、「主体的に学ぶ力」を育成することをねらいとする。

（２）指導の実際

①単元計画について

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
0	健康観察・準備運動・補強運動									高森PCへ提案↓調査
10	地域の実態調査	運動効果を学ぶ	対象者を決めて内容検討	オリジナルエクササイズ 思考→発表→改善→リニューアル						
20				ビデオ・タブレットPC撮影 対象者が見やすく活動意欲が湧く魅力的な映像の作成						
30										
40										
50				振り返り・まとめ・整理運動・片付け						

② 本時の学習（展開）計画

導 入

- ①集合・挨拶・点呼
- ②高森ウォーミングアップをする（ランニング・体操・馬跳び・腕立・腹筋・背筋・ジャンプを各20回）
- ③本時の学習内容の説明

展 開

- ④対象（幼児・小学生・成人・高齢者）に応じたオリジナルのエクササイズプログラムを協働しながら作成する。
- ⑤クラス発表会を行う ←ゲストティーチャー2回
GTからのアドバイスを受け、相互に課題を出し合い、アドバイスや改善ポイントを指摘し、交流を深め、課題解決へとつなげる。

ま と め

- ⑥学習のまとめ
 - (1)班ごとに話し合いをする。
各人の課題への成果
 - (2)学習カードへ記入する。
課題の洗い出し、解決への方法の検討

③ 主体的・対話的学びが展開された場面

本時の学習課題

グループで発表したエクササイズの課題や改善点を確認し、新たなエクササイズプログラムを作成する。

P：体力の現状を把握し、エクササイズプログラムを構成する

D：エクササイズを協働活動で作成する

C：発表会で専門家と仲間から評価してもらう

A：新しいプログラムを作成する課題を解決する

学びを引き出す

クラス発表会でゲストティーチャーや仲間から出された課題を見直し、アドバイスや改善ポイントを中心に練り直したエクササイズを作り上げ、グループの課題解決へとつなげる。



学びを振り返る

「エクササイズ練り直し→改善学習シート」を活用して、グループの課題を考え、仲間と相談し、改善しながら活動できているかを振り返る。



学びを支える

ビデオやタブレット PC を活用し、地域の方々が見やすい動きや角度、興味を持って運動にとりかかりやすい魅力ある動画づくりの工夫をグループで協議しながら作成する。



(3) 検証結果と考察

南関高校と同様に、「子どもの主体性尺度 (20 項目の質問)」を用いたアンケートを実施し、「積極的な自発的行動」「自己決定力」「自己表現」の三つの姿で検証した。

20 項目の質問とその結果は、次のとおりである。

表2 主体性に関する質問紙調査 (高森高校) n=21

「積極的な自発的行動」	事前	事後	差
①やることを人に言われなくても時間や場所等を考えて自分から進んでしますか。	2.76	3.14	↑
②結果を気にせず、とにかく取り組むことができますか。	2.95	3.52	↑
③つまづいた時、自分なりの考えで乗り越えようとしていますか。	2.86	3.05	↑
④自分一人でもやってみようという気持ちが強く、失敗をおそれずやることができますか。	2.48	3.10	↑
⑤あなたは、熱中しているもの(趣味、スポーツ、音楽など)を持っていますか。	3.76	3.67	↓
⑥色々なことについて、おもしろい、やってみたいという気持ちがありますか。	3.38	3.71	↑
⑦新しいことをどんどんやってみる気持ちがありますか。	3.24	3.48	↑
⑧分からないことはすぐに自分で調べようとしていますか。	2.86	3.19	↑
⑨正しいと思ったことは、時間をかけてもやり抜きますか。	2.86	3.14	↑

「自己決定力」	事前	事後	差
⑩自分の考え出したよい意見でも、みんなに反対されると、理由をよく調べないで、すぐに取り消してしまいますか。	2.19	2.52	↑
⑪やろうと思うことも、人からだめだとけなされると、すぐ自信がなくなってしまうですか。	2.33	2.10	↓
⑫自分一人でやることでも自分だけでは不安なので、友だちと一緒にすることが多いですか。	1.90	1.81	↓
⑬よく考えもしないで、友だちの言葉を、すぐ信じてしまうことが多い方ですか。	2.33	2.38	↑
⑭大きな目標を持ち、それができるようにこつこつ取り組みますか。	2.71	3.24	↑
⑮自分がしていることが、よいか、悪いかが分かりますか。	3.48	3.81	↑
⑯時々一人になって、自分の進む道を、よく考えてみますか。	3.05	3.14	↑

「自己表現力」	事前	事後	差
⑰自分の考えを言うことができますか。(発表だけでなく、文や絵や身体表現でも)	3.10	3.43	↑
⑱自分の言葉で自分の考えを言えますか。	2.95	3.29	↑
⑲今までやってきたことをもとにして、遊びの中などで自分の考え方や工夫を出すことができますか。	2.86	3.29	↑
⑳自分の考えを持って、進んで自分から言いますか。	2.52	3.24	↑

質問 20 項目のうち、17 の項目で数値が上がった。特に、「⑳自分の考えを持って、進んで自分から言いますか」・「④自分一人でもやってみようという気持ちが強くなり、失敗をおそれずやることができますか」・「②結果を気にせず、とにかく取り組むことができますか」の 3 つの質問項目では、数値が大きく向上した。本授業で展開された自分の考えを伝え合う対話的な活動や協働して発表したりする場面の設定が自己表現や積極性を高めたものと考えられる。

また、次のグラフは、20 項目の質問を「積極的な自発的行動」「自己決定力」「自己表現」の三つの姿を検証した結果である。

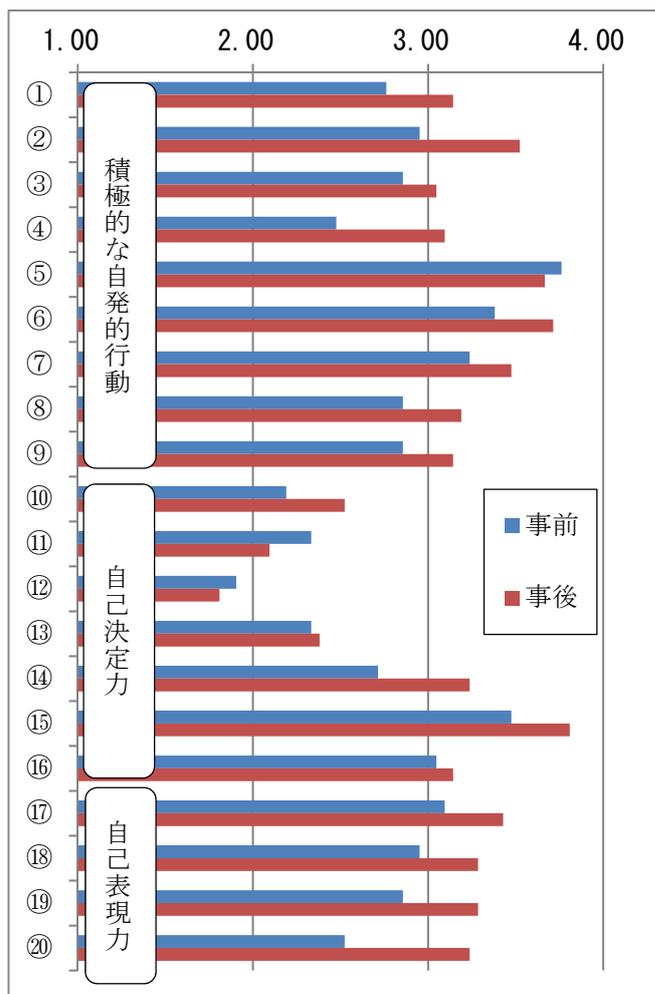


図3 主体性に関する質問紙調査 (高森高校) n=21

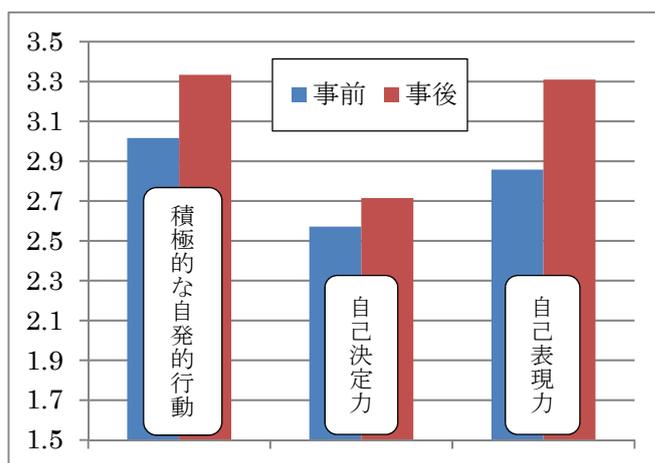


図4 主体性に関する質問紙調査 (高森高校) n=21

「積極的な自発的行動」については、事前調査でも数値が最も高かったが、さらに伸びている。年代別のエクササイズ作成という新たな取り組みだったことなどが生徒の主体的な学びにつながったのではないか。さらに、完成したエクササイズをテレビで

流さなければならないことからくるグループの責任感が自発的な行動に結びついたものと考えられる。

「自己決定力」については、もともとの数値が低い上に数値の伸びも鈍かった。生徒の実態として人前に出ることが苦手であったり、リーダーシップのある生徒に任せてしまう雰囲気があったり、自分の考えを貫き通すタイプの生徒が少ないと考えられる。

「自己表現力」については、最も数値が伸びた部分である。これまでの授業においては、与えられた学習課題が多かったが、今回は地域の体力向上のためにオリジナルエクササイズを提供するという主体的な学びを引き出すしかけがなされた。自分たちで課題を分析し、解決へ向けて取り組んでいくPDC A活動を繰り返しながら、積極的に豊富な対話が生まれた結果であると考えられる。

4 研究のまとめ

両校で実施した「学習に関するアンケート」は、保健体育に関する16項目の質問を実施した。その中で最も数値が伸びた上位3項目が次のとおりである。

①	保健体育の授業の中で、グループ内で課題を考えたり、解決したりする方法を工夫して取り組むことがある。
②	自分は、保健体育の授業の中で、他の人の意見を聞いて、よいところを取り入れたり、改善点を指摘したりしている。
③	自分は、保健体育の授業を通して、「主体的に学ぶ力」が高まっていると思う。

表3 学習に関するアンケート（南関・高森）n=34

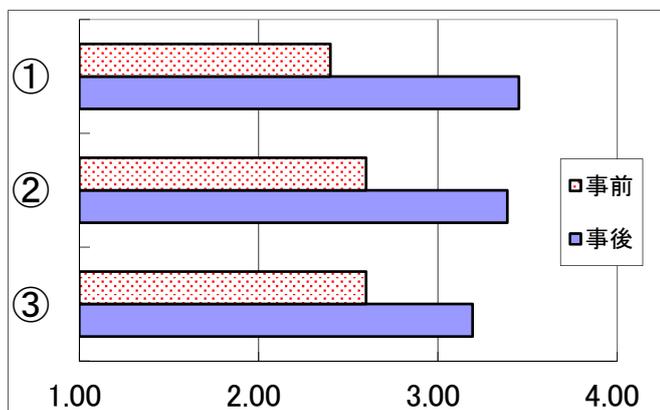


図5 学習に関するアンケート（南関・高森）n=34

この結果から推測できることは、今回の授業で取り組んだ課題発見・解決の過程の中で行われた主体的・対話的な学びにより生徒の意識が変容し「主体的に学ぶ力」が生まれてきたものと考えられる。

また、両校ともそれぞれの地域に存在するNPO法人や体育協会等の人材を活用し、エクササイズプログラム・オリジナル運動を作り上げ、それをまた地域の方に提供できたことは学校と地域の両方にとって有意義な効果をもたらした。

生徒たちは人の役に立つ喜びを得られたり、卒業後の進路先である介護職を真剣に意識し始めたりするなど自己有用感の高まりもみられた。

《引用・参考文献》

- ・文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領解説保健体育編』
- ・浅海健一郎(1999)『子どもの「主体性尺度」の試み』